

<h1>議 事 録</h1>	作 成 日	2021年9月24日
	作 成 者	柴田 愛子

会議名	第2回多世代共生型施設運営委員会
日 時	2021年9月24日(金) 13:30~15:20
場 所	桑名市総合福祉会館 1階 大会議室
出席者	委 員 : 長谷中委員長 川瀬副委員長 日比野委員 細井委員 加藤隆明委員 藤永委員 加藤昇委員 寺崎委員 佐藤委員 田上委員 嶋田委員 蛭川委員 橋本委員 水谷委員 栗田委員 安部委員 事務局 : 山下常務 竹内局長 中川センター長 稲見園長 安藤所長 土屋センター 長補佐 内山係長 宮田主任 篠原 水谷課長 一戸係長 千種 柴田
欠席者	委 員 : 河野委員

議事概要	
<p>1. 挨拶・本日の概要について</p> <p>○山中会長</p> <p>施設の外壁色や名称を委員の皆さんと一緒に決めたい。外観の色は見る人の第一印象となるため、多世代共生型施設にふさわしい色合いに決められたらと思う。</p> <p>～配布資料～</p> <ol style="list-style-type: none"> 資料 施設総称+外壁色(案) パワーポイント画面資料 <p>○長谷中委員長</p> <p>緊急事態宣言下のため、オンラインにて参加。この施設を拠点に、色んな垣根を超えた繋がりが生まれることを狙いとしており、それを実現するために「みんなで作り上げていく」というコンセプトを大切に、これまで進めてきた。この施設が何十年先の桑名にも影響を与える未来を見据えて、外壁色や名称について、皆さんと意見を活発的に交換していきたい。</p> <p>○事務局</p> <p>運営委員・社協・行政・当事者の皆さんと「ともに進めていく・運営していく」というコンセプトを大切に、この運営委員会で意見を交わして決めたことを実現していく姿勢はブレずに進めていきたい。今回議題として挙げたい内容が2点、①名称と②外壁色である。</p> <p>①名称は現在、(仮称)福祉ヴィレッジとなっている。②外壁色については、社協職員の意見をまとめた資料をご用意したので、運営委員の皆さんに見て頂きたい。</p> <p>ただ、「ともに」つくる中で、この施設の立案・運営において、桑名市がなくては立ち上がらなかったことであるため、桑名市の方向性や意向もうかがう必要がある。そのため、この運営委員会での名称や外壁色に関する意見を集約し、桑名市へ持って行き、最終的に桑名</p>	

議事概要

市で意見をとりまとめてもらい決めて頂く予定である。このような進め方でよろしいか。

コロナ禍で運営委員会等の開催ができず、なかなか意見をうかがう場がなかったが、事前にほっとひだまりさんや竹の子の会さんに、名称や外壁色に関する意見を聞き取り、そのご意見も今回の資料案に盛り込んだ。また、職員の中から出てきた意見は、中川センター長よりお話頂く。

また、本日の流れ③の店舗について、これは地域の皆さんで運営していくものになると考えている。ベースは就労Bで運営していく予定だったが、当初は生活介護の作業班として動いていく予定である。生活介護自体は今までどおり行うが、新しく作業班を新設して運営していき、なるべく早く就労Bになるよう努めていきたい。就労Bの仕事内容としては、公園の維持管理・建物館内の清掃管理等を予定しているが、地域の皆さんにも一緒にご協力頂けたらと思う。ただ、具体的にどう進めていくかは、今後店舗に関わるコアメンバーで小部会（店舗部会）を開催し進めていきたい。また、本日お越し頂いている寺崎委員に間に入って頂き、生協さんに店舗運営への参画を呼び掛けた。その他、四日市のおにぎりの桃太郎にも参画を呼び掛けたところ好感触だった。また、4月からすでに運営が始まっている事業所が、療育センター・山崎乳児保育所・清風園の3箇所ある。各事業所より、現状報告をして頂く。

【現状報告】

○療育センター

3月31日まで桑名市の運営で、4月1日より社協の運営となった。開設当初の利用者は15名だったが、現在は22～23名となっている。10月から5名利用が増える予定で、7～8名／月に見学者があり、今後も利用が増えていきそうな様子である。定員は30名だが、2体制で1日に最大60名まで対応できるため、その中で運営していきたい。職員は約20名。今まで座っていられなかった子たちが座れるようになったりと喜びの声も多い。

○清風園

4月1日より、委託から社協直営に変わり、収入面に大きな変化があった。現在の入所者は36名。

入所者については、新型コロナウイルスの影響から、緊急事態宣言下により外出制限をしているが、安定して元気に過ごされている。ただ、外の方との繋がりがストップしている状況である。

○山崎乳児保育所

4月1日から運営が変わり、現在1～5歳児の84名が利用している。保育サービスについては、大きな変化はない。子どもたちはスムーズな移行ができたが、保護者たちは少し不安な様子であるものの、大きなトラブル等はない。職員は24名いるが、一部市からの派遣職員がおり、残りは社協職員での構成となっているものの、職員同士でコミュニケーションをとり合い、上手にやっている様子である。

議事概要

10月から2・3歳児の募集をかけている。

2. 本題

①直近の経過・トピックスのご紹介

- ・起工式、工事状況を写真で提示。概要説明。
- ・設計状況の現状報告
(療育センター、清風園、山崎乳児保育所、桑名福祉センターの各施設から説明)。
- ・作業部会のこれまでの取組み・現状課題の報告
- ・新保育園開設準備状況の報告
- ・店舗開設準備状況の報告
- ・情報発信について (HP の利活用)
- ・補助金申請結果・資金計画

【①に関する質問・意見等】

○委員

補助金が下りなかったというのは、具体的にどういった対象分野についてか。

○事務局

補助金は施設ごとに申請をしており、全部で4分野（養護老人ホーム、母子生活支援施設、保育所、児童発達支援センター・生活介護事業所）の申請を行った。このうち、障がい分野（児童発達支援センター・生活介護事業所）に関する補助が選定漏れとなった。詳細な理由は開示されなかったため、あくまで推測となるが、国の障がい分野の補助金に係る予算が今年度大幅に削減されたことが原因ではないか。

○委員

障がい分野における補助金は、現状だとグループホームの建設くらいだと聞いているため、中々厳しい状況なのだと分かった。

○委員

障がい分野の補助金が出るのが0円だったのか、それとも一部通らなかったのか。

○事務局

0円だった。

○委員

とても厳しく、残念に感じた。

議事概要

○委員

補助金申請結果・資金計画について、不足分の6億というのは、あてがあるのか。

○事務局

福祉医療機構と現在借入の折衝中である。先方より多世代共生型施設の先駆性等については高く評価頂いているが、返すあてがあるのか現在詰めているところである。

○委員

福祉医療機構の査定で8～9割程度の借入額になるのかなと思う。福祉医療機構で借りても足りなかった分は、一般の金融機関や桑名市から借り入れる必要が出てくるため、運営委員の皆さんや社協の皆さんからのプッシュが要ると考える。そんな理解で良かったか。

○事務局

並行して一般の金融機関とも借入の話を進めている。資金調達に漏れないように、しっかり進めていきたいと考えている。

○委員

4月から保育所も開所することだが、子どもたちにきちんと利用してもらえるのか。

○水事務局

2次募集からの応募がどの程度になるものか、委員より経験則からのご発言をお願いしたい。

○委員

1年目は新しい保育園への応募は若干少ないかもしれないが、大山田地区という立地から考えると、社協の運営する保育所に対するニーズは十分に考えられるため、2年目・3年目になれば採算がとれるくらいの応募があるのではと思う。

○委員

山崎乳児保育所も同じ扱いになるのか。

○事務局

山崎乳児保育所は新規の保育所ではないため、1次募集から募集をかけている。

○委員

コロナ禍で連合自治会も中々開催できていないが、連合自治会としても福祉ヴィレッジの運営に協力していきたいと思っている。3月20日に連合自治会の総会が開かれ、そこで福祉ヴィレッジ開設後の運営参画について案を出す予定。

議事概要

松ノ木地区は現在少子高齢化が進んでいるが、全国でも子どもが年間70～80万人程度しか生まれないという。子どもがこれからの未来を作っていく宝であるため、国もそういった福祉にもっと目を向けて欲しいと感じている。

○委員

福祉ヴィレッジ開始後にウォーキングイベントができたらと。ぜひ協力したいと考えている。

○委員

新規の保育園については、近所の方からよく聞かれるが、この場で初めて2月募集ということを知った。保育園についてよく調べている保護者が多いため、理念等を早めに発信してあげてほしい。自分自身は大山田地区の民生委員を務めているが、店舗の話の中で生活介護の作業班が公園の維持管理をしたり館内清掃管理をするとのことで、その部分で何かボランティア等のお手伝いができたらと思う。

○事務局

皆さんからのお力添えをぜひとも欲しいと思っており、具体的にどうしていくかまた話し合いの場が設けられたらと考えている。

○委員

総称や外壁色の決定については事務局に一任したい。ただ、どの地域の人にも分かるような、偏りの無い名称をつけて頂きたい。また、ヴィレッジ内には店舗や様々な施設が入る予定だが、全てに関連する総称名をつけて頂けたらと思う。

○事務局

スライドの中の「施設総称・外壁色」について説明。

資料「施設総称+外壁色（案）」の内容説明。

保護者・地域の方々、社協職員等より意見を募ったところ、意見が45件ほど集まった。この中で、特に「らいむの丘」は、複数人より意見があがった。

外壁色は名称に合わせたものがよいと思う。

外壁色の候補は2色あり、アイボリーとグレーである。また、名称については45ほど意見がある。栗田委員と水谷委員から事前に意見を聞いたところでは、名称に「福祉」をつけることには抵抗がある、とのことだった。障がいや発達が気になる子どもを通わせるのに抵抗がないようにしてあげたい。

また外壁色については、療育センターの職員に聞いたところ、発達が気になる子どもを通わせやすいのはアイボリーではないかとのことだった。グレーは桑名市が推奨している。

議事概要

○委員

柔らかい印象の色を選定してほしい。アイボリーでもさまざまな色合いがあると思うが、その中でも柔らかい色調を選んで頂けたら。

○委員

温かい気持ちになる色を選定してほしい。私たちのグループでは、アイボリーがよいとの意見が多かった。ただ、アイボリーだとしても名前にちなんだ色、例えば、らいむ色寄りのアイボリーを選び、かつ温かい気持ちになる色がいい。

○事務局

構想が開始した5年前の当初からの理念だが、当事者の方々の意見は大事にしたい。また、職員や保護者の方などの意見を聞く中で、個人的には「らいむの丘」がいいのではないかと思う。

○事務局

「らいむの丘」の意味合いとして、資料にも詳細に記載しているが、それぞれが自由に連想したオモイがたくさん集まり、その全てを受け止めるとの思いが込められている。「福祉」が20～30年先には不要になって欲しいとの思いと、「ヴィレッジ」だとそうした福祉を必要とした人たちが集まったという印象を与えてしまいかねない。特定の人のための施設ではなく、皆さんの地域の中に同じように溶け込むように、という意味を込めて、「らいむの丘」を候補として挙げた。

○委員

名称が中々覚えてもらえなくても、建物の色でなら施設を覚えてもらいやすい。「らいむ」の名称に賛成。

○委員

温かいホッとするような場になって欲しく、そういった名称・外壁色を選んでほしい。

○事務局

「らいむの丘」や「虹の丘」等総称が決定したら、その後個別につける名前は、作業部会の方で決めてもよろしいか。また、保育園の理念等についても、近いうちに発表できる予定である。

○長谷中委員長

作業部会でも施設総称の意見を拝見したが、どれも素敵な意味合いが込められた名前なため、運営委員会でも見て頂き、皆さんからの意見を丁寧に聞き取りたい。

名称について、何か意見・ご提案はあるか。

議事概要

○委員

名称を決めるにあたって、2点気になる点がある。1点目は、紛らわしい名前は避けて欲しい。例えば、「ひまわりの丘」だと、「ひまわり保育園」があるため、区別がつきにくくなる可能性がある。2点目は、建物の色を変えると、設計金額が変わるのか。建物ごとに色を変えて建物のイメージに合った色にして、色分けすることで分かりやすくなると思う。

○事務局

色を変えることで金銭面では変わらない。色の意見を聞くのに、竹の子の会等のお母さん方から聞いていたので、外壁色も名称も決定を事務局に一任して頂き、当事者のお母さん方と一緒に決めてもよいか。そして決めた名称・外壁色を運営委員の皆さんに報告する形としたい。

○委員

「らいむの丘」はすごく素敵な名前だと思う。名称に合わせてらいむの木を植えるのもよいかと思う。

○事務局

- ・スライドの「店舗の名称・外壁色」について説明（スライドの資料に沿って）。
店舗については、具体的な案もまだないため、皆さんからぜひ意見を欲しい。
- ・スライドの「今後の進め方」について説明。

未だコロナ禍で全体で頻繁に集まるのが難しいため、少人数で集まれるよう部会を小まめに開催していきたいと考えている。

○川瀬副委員長

一部の人だけのものではなく、地域全ての人たちがうまくまとまるように、重層的支援を行えるように、作業部会の方も作り上げていってほしい。金銭的な面についても不安はある。桑名市全体で作り上げて、地域の皆さんに寄って来てもらえるような施設になるよう、取り組んでほしい。

○長谷中委員長

重層的支援というのが、今国でも進みつつある制度であり、その点において桑名は先進的である。本日の場で、委員の皆さんがこの施設に多大な期待を込めていることを改めて感じた。この施設がこれから上手くいくかは皆さんのお力添えにかかっている。みんなで「ともに」作り上げていくことを大切にしていきたい。

今回は堅苦しい場となってしまったが、今後の運営委員会は、もっとざっくばらんに自由に発言してもらえる場にしていけたらと考えている。

以上